

令和6年度

病院事業報告



熊本赤十字病院

JAPANESE RED CROSS KUMAMOTO HOSPITAL



熊本赤十字病院の基本理念

人道・博愛・奉仕の実践

私たちは、患者・地域・職員に寄り添い、安心と信頼の医療を届けます。



熊本赤十字病院理念に基づく基本方針

救急医療

救急医療を私たちの原点としてとらえ、全ての人に手を差し伸べます。

高度医療

診療の専門性を高め、時代に即した安全で質の高い医療を提供します。

人材育成

教育・研修を推進し、人間性豊かで将来を担う医療人を育成します。

地域連携

地域全体で協力し、誰もが安心して暮らせる社会づくりに貢献します。

医療救援

地球的視野で災禍を見つめ、積極的に医療救援活動に取り組みます。

魅力創出

働きがいのある職場づくりを通して、ぬくもりのある病院を目指します。



患者さんの権利と責務について

〈患者さんの権利〉

1. 患者さんは、安全で良質な医療を公平公正に受ける権利があります。
2. 患者さんは、常にその人格や価値観など人間としての尊厳を尊重される権利があります。
3. 患者さんは、診療に関して十分な説明と情報の提供を受け、理解できるまで質問する権利があります。
4. 患者さんは、自分の治療計画を立てる過程に参加し、自分の意思を表明し、自ら決定する権利があります。
5. 患者さんは、自分の病気の診断や治療について、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
6. 患者さんは、個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

〈患者さんの責務〉

1. 患者さんは、診療に必要な自分自身の健康状態に関する情報を、できるだけ正確に医療提供者に伝え、治療に協力する責務があります。
2. 患者さんは、すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、病院の規則を守り、医療の提供の妨げになる暴力行為や迷惑行為を行わない責務があります。
3. 患者さんは、適切な医療を維持するため、提供を受けた医療に対する診療費を支払う責務があります。

当院では、「日本赤十字社の保有する個人情報保護規程」に基づき、職員を対象とした「熊本赤十字病院個人情報保護規程」を作成し、個人情報保護の確実な履行に努めております。

令和4年度も、職員に対し院内説明会の実施や講演会を開催するなど個人情報の適切な取り扱いが確保できるよう努め、また、患者さんに対しては、当院の個人情報の保護に対する考え方を示した「個人情報の保護についてのお知らせ」を正面玄関及び救命救急センターの入口に立て看板として設置するとともに、各部署へのポスター掲示並びに入院・外来パンフレットへのリーフレット追加などを通じて、広く周知を行いました。

以下、当院ホームページでも公表しております「個人情報保護方針」及び「患者さんの個人情報の利用目的」について示します。



当院は、「人道・博愛・奉仕の実践」という基本理念のもと、診療業務を行っております。

より安全で質の高い医療を提供していくためには、患者さんに関する様々な医療情報が必要です。

当院では、患者さんに安心して情報を提供していただくため、患者さんからお預かりした個人情報を安全に守るべきことを認識し、以下に個人情報保護方針を定め、確実な履行に務めます。

1. 個人情報の収集・利用・提供

個人情報を保護・管理する体制を確立し、適切な個人情報の収集、利用および提供に関する内部規則を定め、これを遵守します。

2. 個人情報の安全対策

個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などに関する万全の予防措置を講じます。万一の問題発生時には速やかな是正対策を実施します。

3. 個人情報の確認・訂正・利用停止

当該本人（患者さん）等からの内容の確認・訂正あるいは利用停止を求められた場合には、当院の内部規則により、調査の上適切に対応します。

4. 個人情報に関する法令・規範の遵守

個人情報に関する法令およびその他の規範を遵守します。

5. 教育および継続的改善

個人情報保護体制を適切に維持するため、職員の教育・研修を徹底し、内部規則を継続的に見直し、改善します。

6. 個人情報の提供・開示

患者さんの個人情報について患者さんが開示を求められた場合には、遅滞なく内容を確認し、当院の内部規則に従って対応いたします。

7. 問い合わせ窓口

個人情報に関するお問い合わせは、以下の個人情報相談窓口においてお受けいたします。

「個人情報保護相談窓口」 医療社会事業課



患者さんの個人情報の利用目的

1. 院内での利用

1. 患者さんに提供する医療サービス
2. 医療保険事務
3. 入退院等の病棟管理
4. 会計・経理
5. 医療事故等あるいは事故未然防止等の報告、分析
6. 患者さんへの医療サービスの向上
7. 院内医療実習への協力
8. 医療の質の向上を目的とした院内症例検討、研究
9. その他患者さんにかかる管理運営業務

2. 院外への情報提供としての利用

1. 他の病院、診療所、助産院、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との連携
2. 他の医療機関等からの照会への回答
3. 患者さんの診療のため、外部の医師等の意見・助言を求める場合
4. 検体検査等の業務委託
5. 医療支援に関する患者さんご本人へのご案内
6. ご家族等への病状説明
7. 保険事務の委託
8. 審査支払機関へのレセプトの提供
9. 審査支払機関または保険者からの照会への回答
10. 審査支払機関または保険者への照会
11. 事業者等から委託を受けた健康診断にかかる事業者等へのその結果通知
12. 医師賠償保険等にかかる医療に関する専門団体や保険会社等への相談や届出
13. 国または地方公共団体等への公益性を優先する場合の情報提供
14. その他患者さんへの医療保険事務に関する利用

3. その他の利用

1. 医療・介護サービスや業務の維持・改善のための基礎資料
2. 外部監査機関への情報提供
3. 医学研究及び学術研究（学会発表等）のための資料

令和6年 4月

- 1 日 組織改正（新設）
 - 「緩和ケア科部」「上部消化管外科部」「第三麻酔科部」
 - 「救援技術研究課」「救援技術研究係」「入退院支援課」「入退院支援係」
 - 「情報システム課」「統計係」
- 〃 「病理診断科部」から「検査部」へ名称変更
- 〃 「第一病理検査課」「病理検査係」「第二病理検査課」「細胞診検査係」を傘下に置く
- 〃 「企画開発課」から「情報システム課」へ名称変更
- 〃 「第三循環器内科部」「医療社会事業課 医療社会事業係」「診療支援課 医師事務作業補助係」を廃止
- 〃 令和6年度日本赤十字社熊本県支部入社式（救急棟4階403多目的ホール）
- 〃 「I&A（輸血機能評価認定）制度」認証施設

5月

- 1 日 創立記念日
- 10 日 看護の日（ナイチンゲール献花祭）
- 18～19 日 九州ブロック赤十字スポーツ大会（長崎）
- 21 日 ANA「すずらん」贈呈式

7月

- 8 日 「児童虐待防止拠点病院」指定

8月

- 3 日 多数傷病者受入机上訓練

9月

- 7 日 「救急の日」イベント（サンロード新市街）
- 13 日 第17回熊本赤十字病院地域医療連携の会

10月

- 1 日 正面玄関リニューアル（回転扉→スライド式自動ドア）
- 1～5 日 「ピンクリボン月間」ピンクライトアップ
- 6～11 日 「ホスピス緩和ケア週間」オレンジライトアップ
- 12～18 日 「臓器移植普及推進月間」グリーンライトアップ
- 17～18 日 日本赤十字社医学会総会（宮城県）
- 26～27 日 全国ブロック赤十字スポーツ大会（熊本）
- 25～29 日 「脳卒中月間」インディゴブルーライトアップ

11月

- 17 日 赤十字フェスタ2024
 - 〃 市民公開講座「小児傷害予防講座」（救急棟4階401・402研修室）
- 18 日 ボランティア永年功労表彰・ボランティアの会総会研修会
- 24 日 多数傷病者受入実働訓練

12月

- 12 日 熊本県合同輸血療法委員会講演会
- 25 日 キャンドルサービス
- 27 日 仕事納め式
- 28 日 ショッピングモール内レストラン「味多」閉店

令和7年 1月

- 6 日 仕事始め式
- 16 日 令和6年度広報クリニック
- 28 日 駐車場システムの更新（ナンバープレート読み取り）
- 29 日 日赤医療連携フォーラム

2月

- 22 日 「頭痛の日」グリーンライトアップ

3月

- 1 日 電気自動車用の充電設備を完備（第一駐車場）
- 3 日 IMAT（事件現場医療派遣チーム）派遣協定
- 9 日 「脈の日」レッドライトアップ
- 24 日 卒後臨床研修修了式
- 26 日 「てんかん啓発の日」パープルライトアップ

令和6年度 院内開催講演会・研修会（抜粋）

開催日	研修会名	内容
4/1～4/2	日赤熊本新入職員研修会	赤十字について、日赤各施設紹介、国際医療救援活動、救護員登録研修、ジェーンズ邸、田原坂見学
4/3	病院職員新入職員研修会	院内感染対策、医療安全対策、情報セキュリティ、個人情報保護・コンプライアンス等
4/11	診療報酬改定に係る講演会	令和6年度診療報酬の動向について／日本血液製剤機構・事業戦略部 主席 谷澤正明
5/10	TQM講演会	改善活動の基本と問題解決の進め方/医療法人厚生堂 長崎病院 病棟看護師長 野村 哲司
5/16	昇任者研修会	幹部講話、昇任者抱負発表
5/23	新規採用職員追加研修①	病院の基本方針について（地域連携、高度医療、教育研修・魅力創出、救急医療）
5/23	第1回ICT地域連携カンファレンス	各施設の感染制御、抗菌薬適正使用推進に関する情報共有
5/24	産科救急セミナー	妊婦の外傷と産科危機的出血の重症例／沖縄県立中部病院 産科副部長 金城 国仁
5/31	日赤熊本常備救護班基礎研修会	日赤の救護活動、災害概論、グループワーク等
6/10	第1回感染対策研修会	麻疹・風疹～今そこにある危機～
6/11	新規採用職員追加研修②	ハラスメント・コンプライアンス／顧問弁護士・高島剛一 コミュニケーション・アサーション/肥銀ビジネス教育㈱・鶴田陽子
6/12	第1回心肺蘇生実技講習	全職員対象蘇生教育
6/17	第1回認知症対応力向上研修	認知症高齢者の現状と課題、急性期医療に求められる認知症ケア、認知症への対応力、病院と地域資源との連携
6/21	新規採用職員追加研修③	ワールドカフェ、メンタルヘルス研修／KMJメンタルアシスト・松下弘子
6/25	第130回熊本大腿骨近位部骨折シームレス研究会	大腿骨近位部骨折地域連携パスに関する研究発表および連携医療機関同士の意見交換/くまもと成仁病院理学療法士・増田有香
7/8	移植医療に関する講演会	「臓器提供家族の思いと願い～妻はみんなと生きている～」/元福井新聞記者 五十嵐利幸（ドナーご家族）
7/13	KUMAMOTO GIM 2024	熊赤内科ふしぎ発見！～医学ミステリーに挑む～検査より有用なフィジカルアセスメント 病歴聴取のアートとサイエンス /群星沖縄臨床研修センター長 徳田安春
7/22	第1回児童虐待対応に関する研修会	児童虐待対応について～マニュアル紹介～、委員会活動紹介
7/24	臨床研修卒業生 凱旋講演会	米国におけるホスピタリストについて/Queen's Medical Center 有好信博
8/2	臨床研修卒業生 凱旋講演会	世界最先端の研究留学からの学びとメッセージ/Massachusetts General Hospital 木下航平
8/3	多数傷病者受入机上訓練	多数傷病者受入の机上訓練
8/13	新規採用職員追加研修④	①医療制度・診療報酬②医療安全/顧問弁護士・岡部真勝③接遇研修/人材教育研究所With early 中尾由美
8/22	循環器内科・心外科医療連携 フォーラム「CROSS LETTERライヴ」（WEB配信）	『周産期の心疾患診療』 周産期心筋症について/桜十字病院 伊藤彰彦、おさえておきたい周産期DVT診療のポイント、妊娠と高血圧～血圧管理の重要性～
8/25	熊本赤十字病院緩和ケア研修会	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会開催指針に準拠した研修
9/7	熊本県災害医療コーディネート研修	熊本県の災害医療提供体制、他
9/25	医療連携研修会「多職種でのせん妄対策」	せん妄対策に関するQ&Aコーナー
9/26	リーダー養成研修会ステップ1	グループワーク「みんなで考えるリーダー力」、リーダーのためのアサーティブコミュニケーション
9/28	移植医療に関する研修会	終末期における選択肢提示に関する講義及びグループワーク/岡山大学助教・小原隆史、鹿児島市立病院・山田浩平
10/3	熊本緩和ケアカンファレンス	患者さんにとって安心・安全ながんの痛み治療と医療用麻薬の自己管理/青森県立中央病院 副院長 的場元弘
10/3	第1回医療安全研修会	部署取り組み発表/血液腫瘍内科外来・外来化学療法センター、栄養課
10/7	総合鏡視下主手術センター講演会	胃癌に対するロボット手術の基本から応用まで/大阪けいさつ病院消化器外科主任部長・大森健
10/21	第2回認知症対応力向上研修	認知症高齢者の現状と課題、急性期医療に求められる認知症ケア、認知症への対応力、病院と地域資源との連携
10/21	新規採用職員追加研修⑤	レジリエンス向上研修/肥銀ビジネス教育㈱・鶴田陽子
10/25	第1回RSS研修会	RSSの目的のおさらい、当院のRSSの動き等
10/28	NST特別講演会	口腔の老化・口腔ケア 摂食障害のキホン/札幌西円山病院 藤本篤士
10/29	第3回心肺蘇生実技講習	全職員対象蘇生教育
11/4	熊本県地域災害医療コーディネート研修	熊本県の災害医療体制、災害被害想定俯瞰、情報の整理と課題抽出、チーム運営演習/災害医療ACT研究所代表 森野一真

開催日	研修会名	内容
11/5	臨床研修卒業生 凱旋講演会	僻地診療所からニューヨークのがん専門病院で働くまで～日赤OB内視鏡医の挑戦～/メモリアルスローンケタリングがんセンター 西村誠
11/6	第2回感染対策研修会	結核の臨床と感染対策/亀田総合病院 感染症内科部長 大澤良介
11/7	リーダー養成研修会ステップ2	グループワーク「みんなで考えるリーダー力」、コーチングとコーチングスキル
11/22	臨床倫理講演会	意思決定支援・ACPに関する基礎講座/大腸肛門病センター高野病院 緩和ケア医師 鳥崎哲平
11/24	多数傷病者受入実働訓練	災害対応マニュアルやBCPに沿った患者受入の実施、「初動・患者の流れ・部門間の連携・情報管理」等についての検証
11/25	第2回医療安全研修会	ペイシェントハラスメント：紛争予防と解決のための実践的手法～患者・家族との向き合い方～/弁護士法人ふくざき法律事務所 福岡博孝
11/28	ICT地域連携カンファレンス	各施設の近況・カンファレンス等
12/3	接遇研修会	①しなやかな電話対応 ②クレーム対応～長い待ち時間～ ③採血がうまくいかない時の対応 ④車いすから・車いすへ～安全な移乗介助～
12/4	第4回心肺蘇生実技講習	全職員対象蘇生教育
12/17	ハラスメント研修会	本社提供のハラスメント研修動画を用いた研修
12/21	熊本県地域災害医療コーディネーター研修	熊本県の災害医療提供体制 他
1/15	管理職集合研修（3回開催）	管理職向けリーダーシップ研修/肥銀ビジネス教育㈱ 今村ゆか
1/25	CBRNE訓練	NBC対応講義、グループワーク、熊本市消防局による除染活動デモンストレーション
1/30	第2回児童虐待対応に関する研修会	児童虐待対応について/四国こどもとおとなの医療センター 地域医療連携室 MSW 福田育美
2/1～2/2	熊本赤十字病院 コミュニケーション技術研修会	日本サイコロジック学会認定 悪い知らせを伝えるコミュニケーション/健康管理センター・吉田稔、くまもと森都総合病院・采田志麻
2/4	医薬品・医療機器・放射線等安全管理研修会	①定数配置薬の安全な使用を考える ②医療機器のインシデント対策～当院の報告事例を踏まえて～③放射線診療の正当性について④診療用放射線にかかる安全管理について
2/13	新規採用職員追加研修⑥	自己理解と自己成長/肥銀ビジネス教育㈱ 鶴田陽子
2/17	第3回認知症対応力向上研修	認知症高齢者の現状と課題、急性期医療に求められる認知症ケア、認知症への対応力、病院と地域資源との連携
2/17	第2回RRS研修会	RSSの目的、当院でのRSSの動き等について
2/18	薬薬連携セミナー	①腎移植の現状と長期生着のための取り組み～チーム医療の重要性～②腎移植領域における薬剤師の役割
2/21	第2回（振替）心肺蘇生実技講習	全職員対象蘇生教育
2/22	臨床倫理研修会	臨床倫理における具体的な問題の解決方法/熊本大学大学院生命科学研究部生命倫理学講座 教授 門岡康弘
2/27	認知症に関する院内講演会 循環器内科・心外科医療連携	今、認知症境界で。アルツハイマー病の疾患修飾薬について
3/5	フォーラム「CROSS LETTERライブ」（WEB配信）	血液サラサラいつまで続ける？～脳梗塞と心臓血管病での使い方～
3/6	外来化学療法地域連携研修会	①婦人科がんと治療の実際 ②外来化学療法における薬剤師の診察前面談について
3/12	第2回保険診療に関する講習会	マイナ保険証利用率向上への取組について
3/13	パスミーティング	①SCU担当医のシフト運用に伴うアウトカム適時確認の重要性 ②整形外科パスの現状と今後～大腿骨近位部骨折パスを中心に～ ③チームで行うパリアンス分析とパスの見直し
3/13	ICT地域連携カンファレンス	令和5～6年度の連携施設院内ラウンド報告（総括）
3/13	情報セキュリティ研修	情報セキュリティに関する教材の配布および理解度チェック
3/13	個人情報保護研修会	個人情報の適正な取り扱いにかかる研修/日赤本社作成
3/15	熊本県医師会生涯教育講座	5類感染症移行後のコロナ診療、開業医のための救急診療、救命救急センター・ドクターヘリ見学
3/15	災害派遣チーム協働研修	災害時における救護活動に関する講義・グループワーク
3/17	小児麻酔 UP to date	最新の小児麻酔の現状について/北海道立子ども総合医療・療育センター 麻酔科手術部長 名和由布子
3/21	TQM大会	改善活動事例報告

1 概要

- (1) 名 称 熊本赤十字病院
- (2) 所 在 地 熊本市東区長嶺南二丁目 1 番 1 号
- (3) 開設年月日 昭和 19 年 4 月 (現在地移転 昭和 50 年 4 月 30 日)
- (4) 許可病床数 一般 490 床 (平成 24 年 5 月 1 日～)
- (5) 標榜診療科 内科 腎臓内科 糖尿病内科 リウマチ科 血液・腫瘍内科 精神腫瘍科
(32 科) 脳神経内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 外科
呼吸器外科 乳腺内分泌外科 整形外科 脳神経外科 心臓血管外科
小児外科 形成外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科
リハビリテーション科 放射線科 放射線治療科 麻酔科 歯科
歯科口腔外科 救急科 病理診断科

2 施設認定状況

令和 7 年 4 月 1 日現在

(1) 医療機関の指定等

救命救急センター
救急告示病院
小児救命救急センター
小児救急医療拠点病院
熊本県ドクターヘリ基地病院
基幹災害拠点病院
熊本 D M A T 指定病院
臨床研修指定病院
地域医療支援病院
地域周産期母子医療センター
地域がん診療連携拠点病院
健康保険医療機関指定病院
国民健康保険療養取扱指定病院
生活保護指定医療機関
結核指定医療機関
身体障害者福祉法による更生医療指定病院
児童福祉法による育成医療養育医療指定病院
母体保護法による医療指定病院
労働者災害補償保険法による医療指定病院
特定疾患治療研究医療機関
小児慢性特定疾患治療研究医療機関
児童福祉施設等の措置医療機関
原子爆弾被爆者の一般疾病指定医療機関
身体障害者作業療法の施設基準承認病院
身体障害者運動療法の施設基準承認病院
がんゲノム医療連携病院

(2) 学会専門医等施設認定

【基本領域専門研修プログラム】

(基幹施設)

内科 産婦人科 救急科 総合診療科 外科 麻酔科

(連携施設)

内科 産婦人科 救急科 総合診療科 外科 小児科 整形外科 脳神経外科 形成外科
皮膚科 泌尿器科 眼科 耳鼻科 放射線科 麻酔科 病理 リハビリテーション科

【Subspecialty 領域専門医】

日本消化器病学会認定施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本呼吸器学会認定施設

日本血液学会認定専門研修認定施設

日本腎臓学会認定教育施設

日本感染症学会専門医制度認定研修施設

日本神経学会専門医制度教育施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

呼吸器外科専門医合同委員会専門研修基幹施設

三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹修練施設（心臓領域）

日本小児外科学会教育関連施設 A

日本リウマチ学会教育施設

日本周産期・新生児医学会新生児専門医補完認定施設

日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医指定認定施設

日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設

日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設

日本放射線腫瘍学会認定施設

日本手外科学会研修施設

日本集中治療医学会専門医研修施設 集中治療部・小児集中治療室

【その他教育施設】

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

日本核医学会専門医教育病院

日本透析医学会専門医制度認定施設

日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設

日本臨床細胞学会認定施設

日本IVR学会専門医修練施設

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設B

日本脈管学会認定研修指定施設

日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療専門研修プログラム

日本臨床腫瘍学会認定研修連携施設

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本胆道学会指導施設

日本乳癌学会認定施設

日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設

日本航空医療学会認定指定施設

日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設（腹腔鏡）
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設（ロボット手術）
日本認知症学会教育施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本外傷学会外傷専門医研修施設
日本頭痛学会認定教育施設
日本臨床工学技士会認定臨床実習指導施設
認定輸血検査技師制度指定施設
日本脳神経外傷学会認定研修施設
日本急性血液浄化学会認定指定施設
日本東洋医学会研修施設
日本臓器移植ネットワーク腎移植施設・透析施設
日本炎症性腸疾患学会指導施設
日本高気圧環境・潜水医学会認定施設
日本胃癌学会認定施設 B
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師暫定研修施設
日本アフレル学会認定施設

【医療チーム】

日本栄養療法推進協議会認定NST（栄養サポートチーム）稼働施設
日本栄養治療学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設

【実施施設等】

植込型補助人工心臓実施施設（成人）
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設
IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本形成外科学会乳房増大エキスパンダー及びインプラント実施施設
子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘手術登録施設
日本脳卒中学会一次脳卒中センター

(3) 第三者機関評価認定

病院機能評価認定病院 3rdG Ver.3.0（機能種別：一般病院2）及び
高度・専門機能（救急医療・災害時の医療Ver.1.0）
卒後臨床研修評価機構臨床研修評価認定病院
ISO15189認定病院
日本輸血・細胞治療学会輸血機能評価認定制度（I & A 制度）認証施設

(4) 厚生労働省告示に基づく承認事項

- ◆DPC（診断群分類別包括評価制度）対象病院
- ◆初・再診料 初診料（医療DX推進体制整備加算）
- ◆入院基本料 急性期一般入院料 1
- ◆入院基本料加算 急性期充実体制加算 1
 - 臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
 - 救急医療管理加算
 - 超急性期脳卒中加算
 - 妊産婦緊急搬送入院加算
 - 診療録管理体制加算 1
 - 医師事務作業補助体制加算 1（15対1）
 - 急性期看護補助体制加算（25対1・看護補助者5割以上）
 - 夜間100対1急性期看護補助体制加算
 - 夜間看護体制加算
 - 看護補助体制充実加算 1
 - 看護職員夜間配置加算（12対1配置加算1）
 - 療養環境加算
 - 重症者等療養環境特別加算
 - 無菌治療室管理加算 2
 - がん拠点病院加算
 - 栄養サポートチーム加算
 - 医療安全対策加算 1
 - 医療安全対策地域連携加算 1
 - 感染対策向上加算 1
 - 指導強化加算
 - 抗菌薬適正使用体制加算
 - 患者サポート体制充実加算
 - 重症患者初期支援充実加算
 - 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
 - ハイリスク妊娠管理加算
 - ハイリスク分娩管理加算
 - 呼吸ケアチーム加算
 - 後発医薬品使用体制加算 1
 - 病棟薬剤業務実施加算 1、2
 - データ提出加算 2
 - 入退院支援加算 1
 - 地域連携診療計画加算
 - 入院時支援加算
 - 認知症ケア加算 1
 - せん妄ハイリスク患者ケア加算
 - 精神疾患診療体制加算 1、2
 - 地域医療体制確保加算

◆特定入院料

救命救急入院料 1（救急体制充実加算1、小児加算）
特定集中治療室管理料 2（小児加算）
（早期離床・リハビリテーション加算）（早期栄養介入管理加算）
脳卒中ケアユニット入院医療管理料
小児特定集中治療室管理料
（早期離床・リハビリテーション加算）（早期栄養介入管理加算）
小児入院医療管理料 1（プレイルーム加算 口）
養育支援体制加算
時間外受入体制強化加算 1

◆短期滞在手術等基本料

短期滞在手術等基本料 1 口（麻酔を伴う手術を行った場合以外）

◆医学管理

外来栄養食事指導料の注 2、注 3
心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）
心臓ペースメーカー指導管理料（遠隔モニタリング加算）
慢性維持透析患者外来医学管理料（腎代替療法実績加算）
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
移植後患者指導管理料（臓器移植後の場合）
小児運動器疾患指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
二次性骨折予防継続管理料 1、3
下肢創傷処置管理料
慢性腎臓病透析予防指導管理料
地域連携小児夜間・休日診療料 2
院内トリアージ実施料
外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料 1
（連携充実加算）（がん薬物療法体制充実加算）
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
ハイリスク妊産婦連携指導料 1
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1、2
がんゲノムプロファイリング評価提供料

◆在宅	救急患者連携搬送料 在宅患者訪問看護・指導料 同一建物居住者訪問看護・指導料 在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料 持続血糖測定器加算 （間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）
◆検査	造血器腫瘍遺伝子検査 遺伝学的検査の注 骨髄微小残存病変量測定 BRCA1/2遺伝子検査 1 腫瘍細胞を検体とするもの BRCA1/2遺伝子検査 2 血液を検体とするもの がんゲノムプロファイリング検査 先天性代謝異常症検査 抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び 抗HLA抗体（抗体特異性同定検査） HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定） ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 （SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの） ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液） 検体検査管理加算（Ⅰ） 検体検査管理加算（Ⅳ） 国際標準検査管理加算 遺伝カウンセリング加算 遺伝性腫瘍カウンセリング加算 植込型心電図検査 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ヘッドアップティルト試験 皮下連続式グルコース測定 神経学的検査 コンタクトレンズ検査料1 小児食物アレルギー負荷検査 CT透視下気管支鏡検査加算 画像診断管理加算3 CT撮影及びMRI撮影 冠動脈CT撮影加算 外傷全身CT加算 大腸CT撮影加算 心臓MRI撮影加算 乳房MRI撮影加算 小児鎮静下MRI撮影加算 頭部MRI撮影加算 肝エラストグラフィ加算 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算1 無菌製剤処理料
◆画像診断	
◆投薬	
◆注射	

- ◆リハビリテーション
 - 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
 - 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
 - 廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
 - 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
 - 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
 - 摂食機能療法（摂食嚥下機能回復体制加算2）
 - がん患者リハビリテーション料
 - リンパ浮腫複合的治療料
- ◆処置
 - 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1、
時間外加算1、深夜加算1
 - 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
 - 多血小板血漿処置
 - エタノールの局所注入（甲状腺）
 - エタノールの局所注入（副甲状腺）
 - 人工腎臓1
導入期加算3
 - 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
 - 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
 - ストーマ処置（ストーマ合併症加算）
 - 酸素の購入単価
- ◆手術
 - 医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6
（歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む）に掲げる手術
 - 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1、
時間外加算1、深夜加算1
 - 皮膚移植術（死体）
 - 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
 - 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
 - 後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）
 - 緊急穿頭血腫除去術
 - 脊髄刺激装置植込術または脊髄刺激装置交換術
 - 内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
 - 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）
及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
 - 乳癌センチネルリンパ節生検加算1及び2
 - ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
 - 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）
（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除
又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 - 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
 - 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）

経皮的冠動脈形成術
 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
 （高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの）
 （エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの）
 経皮的冠動脈ステント留置術
 胸腔鏡下弁形成術
 経カテーテル大動脈弁置換術
 胸腔鏡下弁置換術
 経皮的僧帽弁クリップ術
 経皮的中隔心筋焼灼術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 （リードレスペースメーカーの場合）
 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
 両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び
 両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
 植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は
 皮下植込型のリードを用いるもの）及び
 植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
 補助人工心臓
 植込型補助人工心臓（非拍動流型）
 経皮的大動脈遮断術
 経皮的下肢動脈形成術
 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
 ダメージコントロール手術
 内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
 腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)）
 腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)）
 胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
 胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
 胆管悪性腫瘍手術
 （膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
 体外衝撃波胆石破碎術（一連につき）
 腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）
 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

腹腔鏡下肝切除術（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く。）、
 2区域切除及び3区域切除以上のもの）
 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 体外衝撃波膵石破碎術（一連につき）
 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
 腹腔鏡下膵中央切除術
 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 内視鏡的小腸ポリープ切除術
 小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）
 腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 同種死体腎移植術
 生体腎移植術
 尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 精巣温存手術
 腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
 （子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
 体外式膜型人工肺管理料
 輸血管理料Ⅰ
 輸血適正使用加算
 同種クリオプレシピレート作製術
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 麻酔管理料(Ⅰ)
 周術期薬剤管理加算
 麻酔管理料(Ⅱ)
 周術期薬剤管理加算
 放射線治療専任加算
 外来放射線治療加算
 高エネルギー放射線治療
 1回線量増加加算
 強度変調放射線治療(IMRT)
 画像誘導放射線治療加算(IGRT)

◆麻酔

◆放射線治療

- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 直線加速器による放射線治療（一連につき）
 - 定位放射線治療呼吸性移動対策加算（その他）
- ◆病理
 - 保険医療機関間の連携による病理診断
 - 病理診断管理加算 1
 - 悪性腫瘍病理組織標本加算
- ◆その他
 - 看護職員処遇改善評価料
 - 外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
 - 入院ベースアップ評価料
- ◆入院時食事療養
 - 入院時食事療養（Ⅰ）
- ◆歯科
 - クラウン・ブリッジ維持管理料
 - CAD/CAM冠
 - 歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）

3 沿革

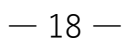
	年	月	
昭和	19.	4	熊本市四軒町18番地に日本赤十字社熊本支部診療所として開設（37床）
	20.	7	戦災にて焼失。診療所を熊本支部に移設
	25.	2	焼失跡地への建築工事竣工。熊本赤十字病院開設（53床）
	25.	10	生活保護法における医療機関の指定
	26.	10	結核予防法における医療機関の指定
	26.	12	優生保護法における医療機関『指定医』の指定
	27.	5	第3病棟増築工事竣工（記念病棟23床、本館5床増、旧病棟1床減、病床数合計80床）
	27.	8	完全給食、完全看護の許可
	28.	2	「日本赤十字社熊本支部」を「日本赤十字社熊本県支部」に改称
	29.	5	一部老朽化に伴い第2病棟4床減床（76床）
	29.	5	看護婦宿舍新築
	30.	3	第1病棟・調理室増築工事竣工（第1病棟35床、旧病棟4床増、病床数合計115床）
	31.	4	本館に3床を増床し、第1病棟4床と第2病棟10床を減床（104床）
	31.	11	記念病棟増築工事竣工（記念病棟36床、病床数合計140床）
	33.	4	赤十字看護婦の養成を福岡赤十字病院高等看護学院に委託
	33.	9	記念病棟を結核病棟に変更
	35.	10	原子爆弾被爆者医療一般疾病医療機関の指定
	40.	4	町名変更により、水道町7-5番地となる
	40.	12	救急告示病院として救急医療を開始
	41.	1	救急告示病院の指定
	48.	4	熊本県知事より開設許可（長嶺町：300床）
	50.	3	熊本市長嶺町への移転新築工事竣工
	50.	5	長嶺町2255番209へ移転。結核病棟を廃止し186床で開院
	50.	5	救急医療センター開設
	50.	8	300床稼働
	51.	5	救急医療センターに切断四肢（指）再接着センター併設
	51.	11	日本赤十字社名誉副総裁 常陸宮妃殿下 病院ご視察
	53.	6	北病棟（病院別館）新築工事竣工
	53.	6	日本赤十字社名誉副総裁 常陸宮妃殿下 落成式ご臨席
	53.	7	北病棟（病院別館）150床増床（450床）
	55.	1	総合病院の認可
	55.	3	救命救急センター増築工事竣工
	58.	9	第一回救急医療功労者厚生大臣表彰
	58.	10	医事業務にコンピュータシステム導入
	60.	8	会計・用度業務にコンピュータシステム導入
	62.	11	中央診療部門増改築工事竣工
	63.	12	腎センターを設置し、当院初の腎移植実施
平成	元.	5	日本赤十字社名誉副総裁 高円宮妃殿下 病院ご視察
	元.	9	栄養管理業務にコンピュータシステム導入
	2.	9	内科外来にコンピュータシステム導入
	2.	9	熊本県角膜・腎臓バンク協会事務局、県より移管
	3.	4	小児病棟に訪問学級を開設
	3.	7	循環器科、呼吸器科、消化器科を標榜
	4.	3	熊本県救急自動車医師看護師同乗及びホットラインシステム事業運用開始
	4.	3	熊本県医療審議会において30床の増床申請承認
	4.	10	28床増床（478床）
	5.	10	熊本県腎移植推進情報センター設置
	6.	3	国民生活センター「危害情報システム」稼働
	7.	1	阪神淡路大震災に対する医療救護を展開（1月18日～2月27日）
	8.	4	臨床研修病院の指定
	8.	8	全診療科の再診予約診療制を開始
	8.	10	にっせき総合情報誌「Dr. CROSS」創刊
	8.	12	災害拠点病院（基幹災害医療センター）の指定
	9.	2	町名変更により、長嶺南二丁目1番1号となる
	9.	3	医療法改正に伴い、理学療法科をリハビリテーション科へ変更

9. 8 日本赤十字社九州ブロック研修センター「アソシエート」建設工事竣工
10. 3 熊本赤十字病院全面移転新築工事第一期竣工（本館）
10. 5 一期工事竣工に伴い開院式
10. 5 熱傷病床（BICU）2床増床（480床）
10. 5 オーダリングシステム導入
11. 2 熊本赤十字病院全面移転新築工事第二期竣工（管理棟）
11. 3 日本赤十字社名誉副総裁 秋篠宮妃殿下 病院ご視察・
日赤熊本グランドオープン記念式典ご臨席
11. 10 慢性疾患児家族宿泊施設「アンリーハウス」新築工事竣工
12. 4 日赤熊本在宅サービスステーション開設
12. 6 特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」配備
12. 7 特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」及び救護班を九州沖縄サミット
救護のため沖縄県に派遣
12. 11 国際医療救援部を設置
12. 11 日本赤十字社名誉副総裁 三笠宮寛仁親王妃殿下 病院ご視察
13. 5 特定集中治療室（4床）を整備
13. 11 化学災害用除染設備を整備
13. 12 ホームページ開設
14. 8 総合グラウンド整備工事竣工
14. 9 第二ヘリポート竣工
15. 2 遠隔画像診断支援システム運用開始
15. 3 総合医療情報システム（オーダリング・医事システム・画像ファイリングシステム・
各部門システム）運用開始
15. 5 （財）日本医療機能評価機構『一般病院種別B』の認定取得
15. 6 外来部門診療順番表示システム運用開始
15. 7 電子レセプト導入
15. 9 スレイマニア教育病院（イラク・クルド人自治区）との医療技術支援事業に関する
合意議定書調印式
15. 10 神経内科を標榜
15. 10 アソシエート救護倉庫建築工事竣工
16. 2 熊本県小児救急医療拠点病院の指定
16. 2 日本赤十字社「重症急性呼吸器症候群（SARS）拠点病院」の指定
16. 4 ERU資機材を整備
16. 6 院内画像フィルムレス運用開始
16. 7 紹介患者外来診療予約システム運用開始
16. 10 院内全館禁煙の施行
16. 10 新潟県中越地震に対する医療救護を展開（10月25日～11月26日）
18. 4 医療連携室を開設
18. 4 歯科口腔外科を標榜
18. 4 総合血管センター（バスキュラーラボ）を開設
18. 6 医療安全推進室を設置
18. 7 DPC（診断群分類包括評価制度）を導入
18. 10 セカンドオピニオン外来を開設
18. 12 ブラキセラピー（前立腺がんに対する小線源療法）稼動
19. 4 熊本県地域周産期母子医療センターの認定
19. 4 教育研修推進室を設置
19. 12 全館指静脈生体認証方式の運用開始
20. 2 地域がん診療連携拠点病院の指定
20. 7 特殊医療救護車両「ディザスターレスキュー」及び救護班を洞爺湖サミット救護
のため北海道に派遣
21. 3 電子カルテシステム、生理検査部門システム運用開始
21. 3 太陽光発電システム設置
21. 4 形成外科を標榜
21. 7 がん診療連携外来を開設
21. 9 総合鏡視下手術センターを開設
21. 11 紹介患者連携システム運用開始
22. 11 地域医療支援病院の指定

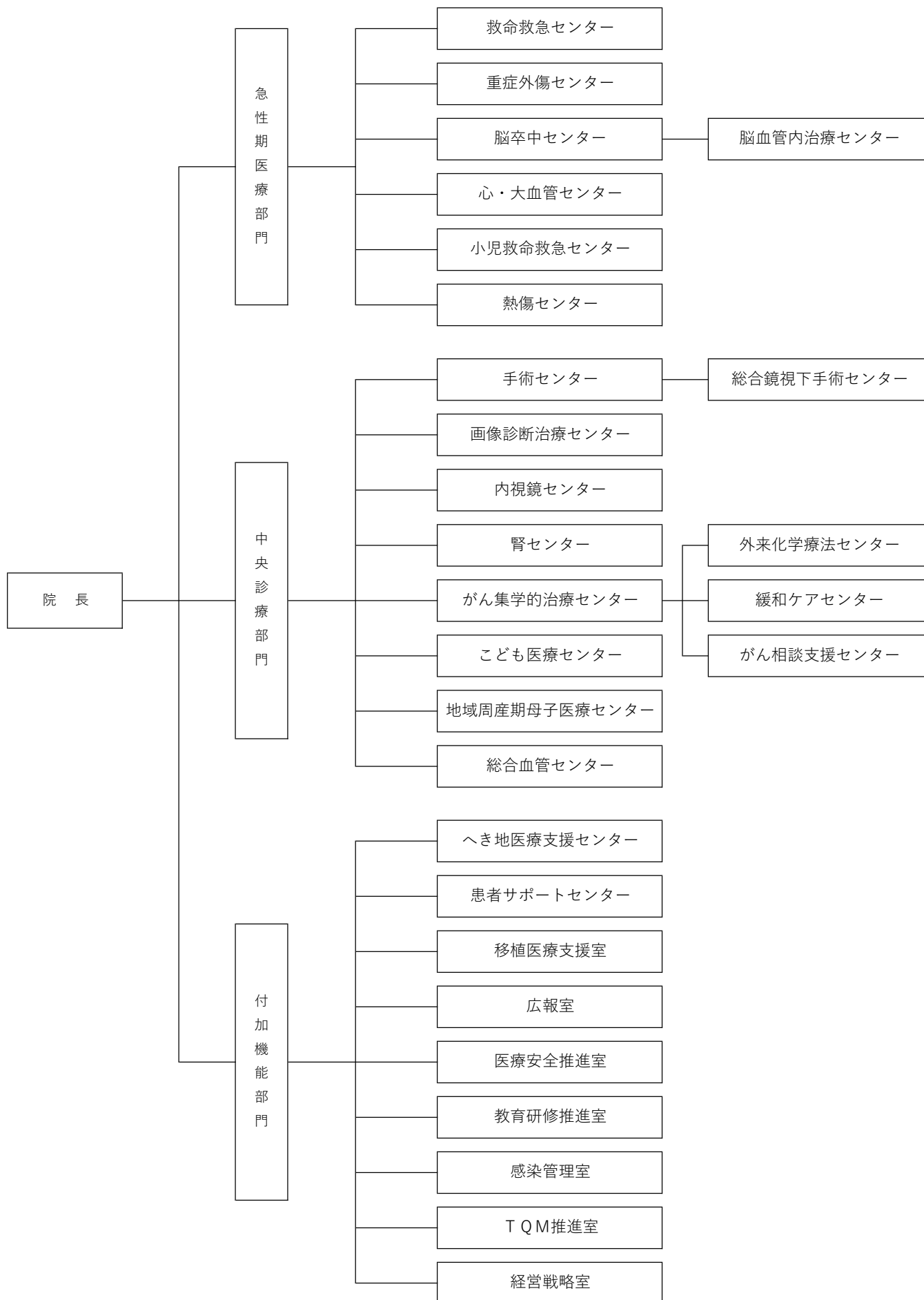
- 23. 3 東日本大震災に対する医療救護を宮城県石巻市を中心に展開（3月11日～5月31日）
- 23. 4 院内情報表示システム（外来部門）を導入
- 23. 12 立体駐車場及び第二ヘリポート整備工事竣工
- 24. 1 NPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定取得
- 24. 1 熊本県ドクターヘリ基地病院として運航開始
- 24. 4 熊本市の区制施行により東区長嶺南二丁目1番1号となる
- 24. 4 血液・腫瘍内科、乳腺内分泌外科、放射線治療科、救急科を標榜
呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、耳鼻いんこう科の名称変更
- 24. 5 こども医療センター・総合救命救急センター増改築工事竣工
- 24. 5 小児特例病床10床増床（490床）
- 24. 7 安全功労者総務大臣表彰
- 24. 9 こども医療センター全面オープン記念セレモニー
赤十字広報特使 藤原紀香さんオープニングセレモニー参加
- 25. 4 へき地医療支援センターを開設
- 25. 4 小児救命救急センターの指定
- 25. 4 熊本市救急ワークステーション運用開始
- 25. 6 精神腫瘍科を開設
- 25. 6 熊本県と災害医療コーディネーターの協定締結
- 25. 8 CT(320列)稼動開始
- 25. 9 病理診断科を標榜
- 26. 2 病院機能評価3rdGVer.1.0（機能種別：一般病院2）及び
付加機能評価（救急医療機能Ver.2.0）受審（平成26年5月2日認定）
- 26. 4 総合診療科部を設置
- 26. 10 第50回日本赤十字社医学会総会 熊本開催
- 26. 11 救急集中治療病棟（ECU）1床減床（9→8床）
- 26. 12 地域医療連携ネットワーク・くまもとクロスネット立上げ
- 27. 1 空調熱源機（空冷チラー）、コージェネレーションシステム機器更新
- 27. 3 総合医療情報システム（電子カルテ）更新
- 27. 3 MRI(3テスラ)稼動開始
- 27. 4 外傷外科部、IVR科部を設置
- 27. 4 こども病棟2床減床（こども2階病棟30→29床、こども3階病棟20→19床）
- 27. 4 小児集中治療病棟（PICU）2床増床（6→8床）
- 27. 4 妊娠と薬外来を開設
- 27. 5 地域医療連携ネットワーク・くまもとクロスネットシステム運用開始
- 28. 1 NPO法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定更新
- 28. 2 集中治療病棟、救急集中治療病棟（ICU16床）の統合
- 28. 3 職員病児・病後児保育室「ひだまり」開設
- 28. 4 熊本地震に対する医療救護を院内、南阿蘇村、西原村、益城町を中心に展開（4月14日～6月1日）
- 28. 4 リウマチ・膠原病内科部を設置
- 28. 7 日本赤十字社九州ブロック研修センター「アソシエート」閉館
- 29. 2 院内保育所「オリーブ」竣工（平成29年4月1日開園）
- 29. 3 地震被害にかかる建物等復旧工事完了
- 29. 4 感染管理室を設置
- 29. 4 四肢外傷再建外科部を設置
- 29. 7 公式Facebookページを開設
- 30. 3 日本水大賞 厚生労働大臣賞受賞
平成30年7月豪雨災害に対する救護活動を広島県・岡山県で展開（7月10日～8月11日）
- 30. 10 患者サポートセンターを開設
- 30. 12 脳卒中センターを開設
- 30. 12 熊本赤十字病院初の症例となる臓器提供を施行
- 30. 12 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入
- 30. 12 日赤キャンパス敷地内全面禁煙施行
- 31. 2 病院機能評価3rdGVer.2.0（機能種別：一般病院2）及び
付加機能評価（救急医療機能Ver.2.0）受審（令和元年5月2日認定）
- 31. 4 トータル・クオリティ・マネジメント（TQM）推進室を設置
移植医療支援室を設置
腎臓内科、リウマチ科、糖尿病内科、呼吸器外科を標榜
脳神経内科を名称変更
- 令和 元. 8 九州北部豪雨災害に対する救護活動を佐賀県で展開（8月29日～8月30日）

- 元. 11 卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定更新（4年）
- 元. 11 就業管理システム本稼動
- 元. 12 ハイブリッド手術室運用開始
- 2. 2 新型コロナウイルス感染症対策会議設置
- 2. 4 心血管カテーテル治療科部、小児集中治療科部、第二心臓血管外科部、
第二小児外科部、医療社会事業課病床管理係を設置
重症外傷センター、心・大血管センター、熱傷センター、内視鏡センターを設置
ME（MedicalEngineer）からCE（ClinicalEngineer）に名称変更
新設 脳卒中集中治療病棟（S C U）15床
増床 救急1階病棟（6→10床）、4階西病棟（40→44床）
減床 こども2階病棟（29床→23床）、こども3階病棟（19→17床）、
5階西病棟（46→31床）
新型コロナウイルス感染症対策本部設置
- 2. 5 熊本赤十字病院公式YouTubeチャンネルの開設
1.5TMRI装置「MAGNETOMsola」稼動開始
- 2. 7 令和2年豪雨災害に対する救護活動を展開（人吉・球磨地域、芦北・水俣地域）
（7月4日～8月28日）
- 2. 10 ISO15189の認定施設取得
- 3. 2 特定行為研修指定研修機関指定（救急領域）
- 3. 4 脳神経・外傷外科部、リハビリテーション科部第三理学療法係、心臓血管麻酔科部、
総務課医療調整係を設置
緩和ケアセンターを設置
- 3. 5 F C 医療車共同実証開始セレモニー
- 3. 8 外来化学療法室の増床（14→22床）
- 3. 11 保険証等のオンライン資格確認開始
- 4. 1 熊本赤十字病院公式Instagram開始
- 4. 1 リウマチ科外来移設
- 4. 1 熊本県からドクターヘリ運航10周年の感謝状を授与
- 4. 4 第三循環器内科部、不整脈治療科部、
リハビリテーション科部 第二リハビリテーション課、
検体検査課 輸血・移植検査係、生理検査課 心血管カテーテル検査係、
企画開発課 経営企画係を設置
経営戦略室を設置
- 4. 7 臨床工学課 臨床工学係を設置
- 4. 10 D X 推進委員会を設置
- 4. 11 がん集学的治療センターを設置
- 5. 4 大腸外科、肝胆膵外科、移植外科、病院前救急診療科
臨床工学部、第二臨床工学課、第三臨床工学課
入院業務課 体制再編係、企画開発課 D X 推進係、器材管理課 器材管理係を設置
- 5. 7 輸血機能評価認定制度（inspection and accreditation : I & A）受審（令和5年10月認定）
- 5. 8 熊本県「紹介受診重点医療機関」に指定
- 5. 10 外来業務課 保険請求係を設置
- 6. 1 小児腎臓科、小児消化器・肝臓科を設置
N P O 法人卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価認定更新
能登半島地震に対する医療救護を石川県珠洲市、輪島市、七尾市を中心に展開（1月9日～4月8日）
- 6. 2 病院機能評価3rdGVer.3.0（機能種別：一般病院2）及び
高度・専門機能（救急医療・災害時の医療Ver.1.0）受審（令和6年5月2日認定）
- 6. 4 緩和ケア科部、上部消化管外科部、第三麻酔科部、救護技術研究課、救護技術研究係、
入院退院支援課、入院退院支援係、情報システム課、統計係を設置
- 7. 3 I M A T（事件現場医療派遣チーム）派遣協定

令和7年4月1日現在



(2) センター・室 機能構成図



(3) 院内各種委員会

令和7年4月1日現在

院長	幹部会	担当事務局	委員会名／会議名	委員長／室長	副委員長／副室長
		1) 医療安全推進室	1 メディカルセーフティマネジメント委員会	角田 隆輔	長谷川 秀／鈴木 龍介
			2 医療安全対策委員会	角田 隆輔	長谷川 秀
		2) 検査部	3 輸血療法委員会	平山 亮	小出 俊一
			4 臨床検査適正化委員会	小出 俊一	長谷川 秀
		3) 薬剤部	5 臨床治験審査委員会	荒金 太	山永 成美
			6 薬事委員会	陣上 祥子	角田 隆輔
		4) 人事課	7 安全衛生委員会	森崎 勝利	
			8 働き方改革推進委員会	長谷川 秀	奥本 克己
		5) 総務課	9 移植医療支援室会議	荒金 太	桑原 謙／山永 成美
			10 個人情報保護委員会	森崎 勝利	北田 英貴
			11 防火・防災管理委員会	井ノ上 隆己	
			12 医療ガス安全管理委員会	佐土原 友弘	
			13 放射線安全委員会	横山 公一	
			14 放射線治療品質管理委員会	横山 公一	
			15 危機管理対策委員会	奥本 克己	山家 純一／岡村 直樹
		6) 外来業務課	16 外来運営検討委員会	田中 栄治	押川 英仁
			17 保険診療審議委員会	宮本 和彦	加島 雅之
			18 患者サービス検討委員会	須本 大二郎	奥本 克己
		7) 入院業務課	19 D P C 検討委員会	北田 英貴	永末 裕友
		8) 診療支援課	20 手術室運営委員会	荒金 太	長谷川 秀／棚平 大
			21 診療録等管理委員会	横溝 博	吉元 和彦
			22 がん診療検討委員会	荒金 太	田中 栄治
			23 倫理委員会	荒金 太	加島 雅之
			24 補助人工心臓装着適応検討委員会	鈴木 龍介	池本 智一
		9) 栄養課	25 栄養管理委員会	長谷川 秀	遠山 由貴
		10) 企画開発課	26 経営戦略室会議	長谷川 秀	石本 健太
			27 広報推進会議	荒金 太	長谷川 秀
			28 将来構想委員会	荒金 太	奥本 克己
			29 高難度新規医療技術評価委員会	角田 隆輔	荒金 太
		11) 情報システム課	30 T Q M推進室会議	角田 隆輔	松田 眞澄
			31 クリティカルパス委員会	寺崎 修司	吉元 和彦
			32 コンピュータシステム検討委員会	平井 克樹	山家 純一
			33 D X推進委員会	長谷川 秀	徳永 健一郎
		12) 教育研修推進課	34 教育研修推進室会議	奥本 克己	志賀 陽子／嶋田 久美子
			35 卒後臨床研修管理委員会	奥本 克己	加島 雅之／加藤 陽一
			36 図書委員会	山家 純一	豊田 麻理子
			37 看護師特定行為研修管理委員会	奥本 克己	岡野 雄一
		13) 購入管理課	38 医療機器購入委員会	荒金 太	永末 裕友
			39 診療材料購入審査委員会	荒金 太	武藤 雄一郎
		14) 器材管理課	40 感染対策委員会	加島 雅之	田中 栄治
		15) 救急業務課	41 救命救急センター運営委員会	奥本 克己	加藤 陽一
		16) 国際医療救援部	42 国際活動検討委員会	岡村 直樹	城下 卓也
		17) 医療社会事業課	43 病床管理委員会	奥本 克己	鈴木 龍介
			44 保護事案検討委員会	山家 純一	武藤 雄一郎
		18) 地域医療推進課	45 医療機能連携推進委員会	宮本 和彦	長谷川 秀
			46 地域医療支援病院運営委員会	平田 稔彦	宮本 和彦

(2) 診療科別患者数前年度対比表

(単位：人)

診療科		令和6年度		令和5年度		対前年度比 増 減
		延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	
内 科	入院	23,496	64.4	22,853	62.4	643
	外来	24,185	99.5	25,035	103.0	△ 850
腎 臓 内 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	17,321	71.3	16,920	69.6	401
リ ウ マ チ 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	10,973	45.2	9,913	40.8	1,060
血 液 ・ 腫 瘍 内 科	入院	9,233	25.3	7,916	21.6	1,317
	外来	14,462	59.5	15,333	63.1	△ 871
精 神 腫 瘍 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	364	1.5	389	1.6	△ 25
脳 神 経 内 科	入院	13,718	37.6	11,308	30.9	2,410
	外来	5,555	22.9	5,185	21.3	370
呼 吸 器 内 科	入院	9,671	26.5	5,668	15.5	4,003
	外来	8,730	35.9	7,753	31.9	977
消 化 器 内 科	入院	14,321	39.2	16,155	44.1	△ 1,834
	外来	18,151	74.7	18,702	77.0	△ 551
循 環 器 内 科	入院	16,366	44.8	14,058	38.4	2,308
	外来	14,213	58.5	14,088	58.0	125
小 児 科	入院	10,299	28.2	8,486	23.2	1,813
	外来	26,651	109.7	28,954	119.2	△ 2,303
外 科	入院	12,046	33.0	11,879	32.5	167
	外来	8,203	33.8	8,257	34.0	△ 54
呼 吸 器 外 科	入院	1,048	2.9	1,030	2.8	18
	外来	949	3.9	947	3.9	2
乳 腺 内 分 泌 外 科	入院	1,203	3.3	924	2.5	279
	外来	7,299	30.0	6,351	26.1	948
整 形 外 科	入院	11,136	30.5	12,632	34.5	△ 1,496
	外来	13,210	54.4	13,549	55.8	△ 339
脳 神 経 外 科	入院	10,377	28.4	9,636	26.3	741
	外来	5,823	24.0	5,939	24.4	△ 116
心 臓 血 管 外 科	入院	5,227	14.3	5,898	16.1	△ 671
	外来	4,638	19.1	4,686	19.3	△ 48
小 児 外 科	入院	1,173	3.2	916	2.5	257
	外来	2,827	11.6	2,613	10.8	214
形 成 外 科	入院	2,183	6.0	2,152	5.9	31
	外来	5,906	24.3	5,751	23.7	155
皮 膚 科	入院	1,154	3.2	1,475	4.0	△ 321
	外来	8,194	33.7	8,768	36.1	△ 574
泌 尿 器 科	入院	1,033	2.8	1,018	2.8	15
	外来	6,601	27.2	6,957	28.6	△ 356
産 婦 人 科	入院	6,387	17.5	7,849	21.4	△ 1,462
	外来	15,416	63.4	16,193	66.6	△ 777
眼 科	入院	669	1.8	369	1.0	300
	外来	5,207	21.4	4,548	18.7	659
耳 鼻 い ん こ う 科	入院	4,002	11.0	5,539	15.1	△ 1,537
	外来	10,034	41.3	10,909	44.9	△ 875
リハビリテーション科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	222	0.9	365	1.5	△ 143
放 射 線 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	405	1.7	421	1.7	△ 16
放 射 線 治 療 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	2,425	10.0	2,108	8.7	317
麻 酔 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	160	0.7	780	3.2	△ 620
歯 科	入院	0	0.0	0	0.0	0
	外来	1,424	5.9	1,432	5.9	△ 8
救 急 科	入院	2,071	5.7	1,239	3.4	832
	外来	0	0.0	1	0.0	△ 1
合 計	入院	156,813	429.6	149,000	407.1	7,813
	外来	239,548	985.8	242,847	999.4	△ 3,299

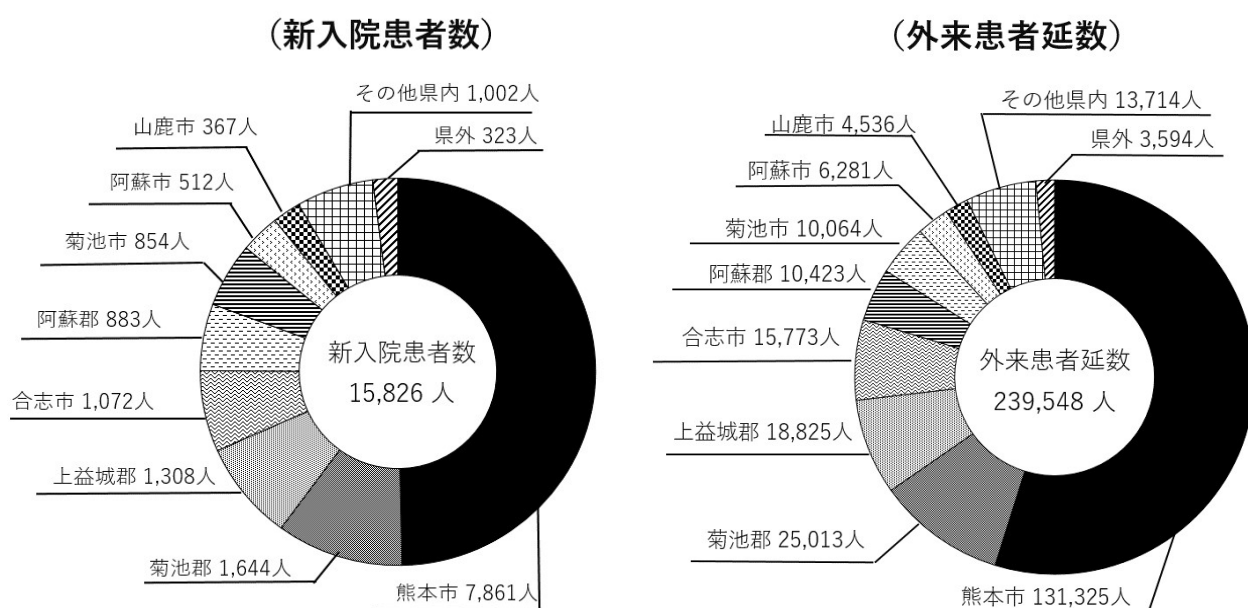
※糖尿病内科の延患者数は内科に含む。

(3) 入院及び外来患者数等

		令和 6 年度	令和 5 年度	対前年度増減
入 院	病床数 (床)	490	490	0
	病床延数 (床)	178,850	179,340	△ 490
	新入院患者数 (人)	15,826	15,622	204
	患者延数 (人)	156,813	149,000	7,813
	1日平均患者数 (人)	429.6	407.1	22.5
	病床利用率 (%)	87.7	83.1	4.6
	平均在院日数 (日)	9.9 (10.7)	9.5 (10.2)	0.4 (0.5)
	1人1日当たり診療単価 (円)	97,693	98,196	△ 503
外 来	新患者延数 (人)	51,113	56,426	△ 5,313
	再来患者延数 (人)	188,435	186,421	2,014
	患者延数 (人)	239,548	242,847	△ 3,299
	1日平均患者数 (人)	985.8	999.4	△ 13.6
	平均通院日数 (日)	4.7	4.3	0.4
	1人1日当たり診療単価 (円)	25,643	25,843	△ 200
紹介患者数 (人)		14,240	14,320	△ 80
逆紹介患者数 (人)		24,308	21,537	2,771
地域医療支援病院紹介率 (%)		92.9	91.7	1.2
地域医療支援病院逆紹介率 (%)		158.5	137.9	20.6

※平均在院日数 () 内は短期滞在手術料対象患者・特定入院料算定患者の一部・自費患者を除いた値

(4) 診療圏別入院・外来患者数 (年計)



(5) 手術件数、検査件数等

		令和 6 年度	令和 5 年度	対前年度増減
手術部門	手術件数	5,386	5,294	92
	再掲) 全麻	4,574	4,616	△ 42
	再掲) 局麻	812	673	139
	鏡視下 (再掲)	1,765	1,783	△ 18
	カテ室手術件数	1,556	1,557	△ 1
	主な外来手術	1,181	1,156	25
	ペインクリニック	0	666	△ 666
診療部	外来化学療法数	5,243	5,142	101
	治験実施件数	291	304	△ 13
	分娩件数	113	167	△ 54
	腎移植件数	15	26	△ 11
	人工透析 外来	8,051	7,910	141
	入院	4,337	4,425	△ 88
	高気圧酸素療法	411	430	△ 19
チーム医療	呼吸器ケア対象数	79	64	15
	ICT巡回対象数	111	137	△ 26
	感染症巡回対象数	1,009	1,192	△ 183
	褥瘡ハイリスク件数	1,371	1,425	△ 54
	NST対象者数	421	424	△ 3
	摂食機能療法	969	975	△ 6
薬剤部門	調剤数 外来	67,979	81,963	△ 13,984
	入院	145,618	138,209	7,409
	調剤延数 外来	796,038	942,674	△ 146,636
	入院	829,300	803,908	25,392
	薬剤管理指導件数	19,938	17,231	2,707
放射線科 部門	一般撮影件数	69,461	67,994	1,467
	CT撮影件数	27,371	26,044	1,327
	MRI件数	11,084	10,855	229
	血管造影件数	2,223	2,005	218
	内視鏡件数	7,497	7,687	△ 190
	RI件数	708	649	59
	体外結石破碎件数	13	17	△ 4
	ライナック件数	9,341	8,663	678
	ブラキセラピー件数	2	2	0
検査部門	検体検査件数	3,142,195	3,009,072	133,123
	生理検査件数	61,590	60,748	842
	病理検査件数	12,580	13,263	△ 683
栄養部門	栄養指導件数	2,174	2,692	△ 518
リハビリ テーション部門	理学療法延数	37,729	33,557	4,172
	作業療法延数	16,988	14,325	2,663
	心臓リハ延数	0	0	0
	言語聴覚療法延数	14,491	11,783	2,708

※手術件数のうち「全麻」には硬膜外麻酔、脊椎麻酔を含む。また「局麻」には静脈麻酔、伝達麻酔等を含む。

※心臓リハ延数は令和5年度から理学療法延数に計上。

(6) がん治療実績

① がん患者数

	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
年間がん入院患者数（実数）	2,282	2,436	2,396
年間がん外来患者数（延数）	65,895	66,570	65,880
年間部位別がん入院患者手術件数	1,015	1,039	955

② 部位別がん患者入院件数（上位10部位）

順位	部位名	件数
1	気管支及び肺	279
2	膵臓	208
3	胃	187
4	結腸	181
5	非ホジキンリンパ腫	180
6	乳房	178
7	胆のう・胆管	150
8	子宮	130
9	前立腺	95
10	骨髄性白血病	88

③ 部位別がん入院患者手術件数（上位10部位）※内視鏡手術は含まない

順位	部位名	件数
1	結腸	133
2	乳房	128
3	気管支及び肺	101
4	子宮	87
5	子宮頸部の上皮内癌	79
6	膀胱	68
7	胃	66
8	直腸および肛門	58
9	呼吸器および消化器の続発性悪性	42
10	肝及び肝内胆管	41

(7) 救命救急センター

救命救急センターの基本理念

『断らない救急』

救命救急センター理念に基づく基本方針

Anyone	子どもからお年寄りまで 軽症者から重症者まで
Anything	診療科を問わずどんな疾患も
Anytime	24時間365日 平時から災害時まで

① 搬送別救急患者数

	救急車等（消防機関）		病院車	ドクターカー	ドクターヘリ	その他	合計
	救急車	防災ヘリ					
令和6年度	7,206	10	304	64	524	36,830	44,938
	16.0%	0.0%	0.7%	0.1%	1.2%	82.0%	100%
令和5年度	7,624	15	319	47	557	40,077	48,639
	15.7%	0.0%	0.7%	0.1%	1.1%	82.4%	100%
令和4年度	7,627	21	362	51	581	41,360	50,002
	15.3%	0.0%	0.7%	0.1%	1.2%	82.7%	100%

② 重症度別救急患者数

（単位：人）

	一 次	二 次	三 次	再掲／CPA	合 計
令和6年度	36,424	5,337	3,177	256	44,938
	81.0%	11.9%	7.1%		100%
令和5年度	40,322	5,469	2,848	277	48,639
	82.9%	11.2%	5.9%		100%
令和4年度	41,711	5,609	2,682	296	50,002
	83.4%	11.2%	5.4%		100%

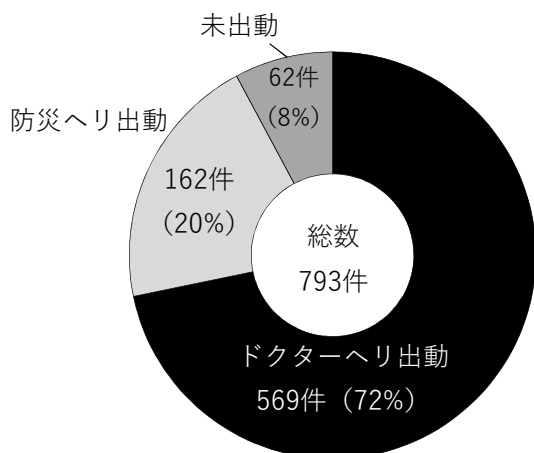
③ 即日入院患者

（単位：人）

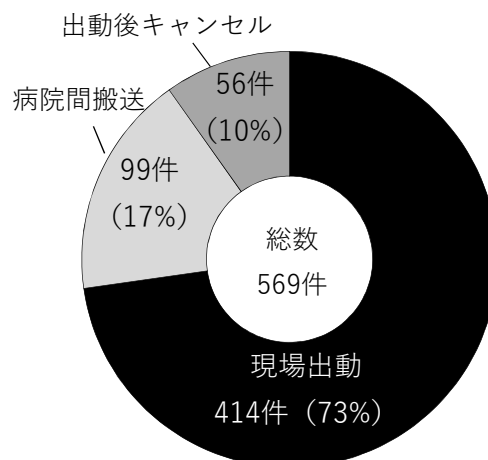
	総患者数	即日入院 （再掲）	総患者数に 対する入院の割合
令和6年度	44,938	8,005	17.8%
令和5年度	48,639	7,874	16.2%
令和4年度	50,002	7,860	15.7%

④ 熊本県ドクターヘリ実績

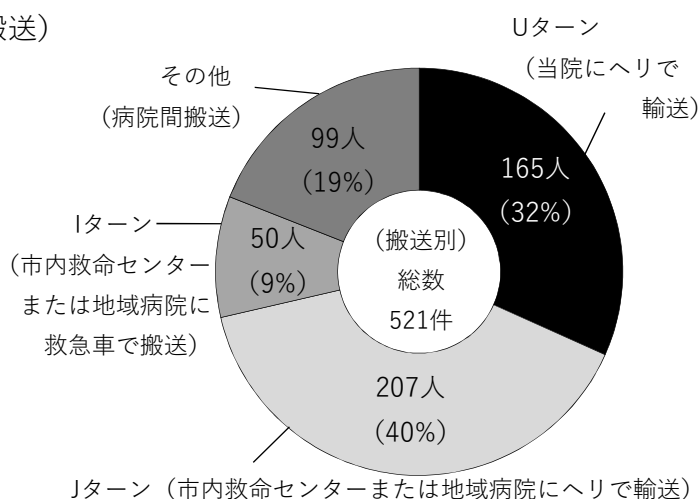
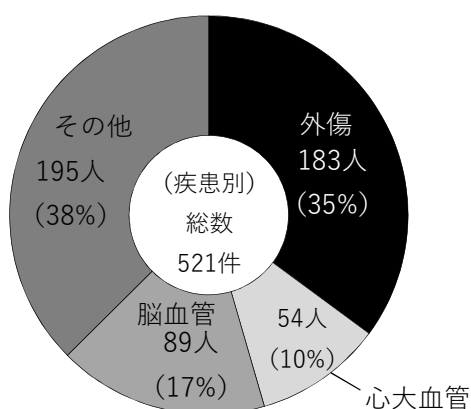
ドクターヘリ、防災ヘリ要請



ドクターヘリ出動(要請内容別)

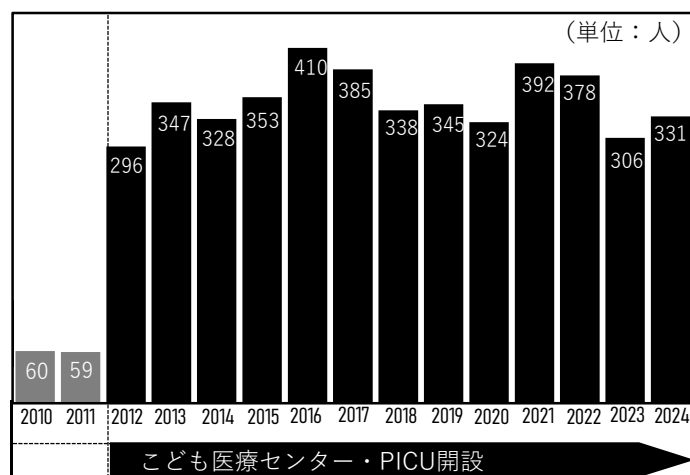


ドクターヘリ搬送患者数（現場救急・病院間搬送）

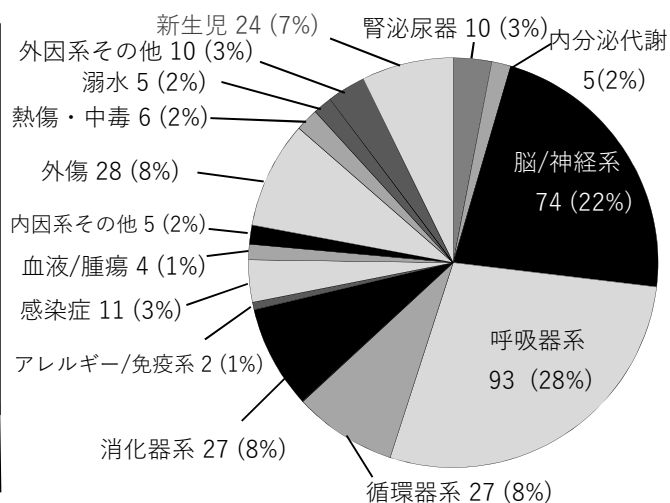


⑤ PICU（小児集中治療室）実績

PICU（小児集中治療室）入室患者疾患数推移



PICU入室患者疾患内訳



(8) 医療救援＜国際活動＞

①派遣国別人数

年代	派遣国	事業名	人数
昭和55年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	5名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
昭和57年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	4名
昭和59年	エチオピア連邦民主共和国	干ばつ被災者救援事業	1名
昭和60年	スーダン共和国	干ばつ被災者救援事業	1名
昭和62年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
	ネパール連邦民主共和国	保健衛生事業	1名
昭和63年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
昭和64年	タイ王国	カンボジア難民救援事業	1名
平成元年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
	ソビエト社会主義共和国連邦	地震被災者復興事業	1名
平成2年	マレーシア	ベトナム難民救援事業	2名
	ケニア共和国	ケニア紛争犠牲者救援事業	1名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	1名
平成3年	シリア・アラブ共和国	湾岸戦争避難民救援事業	2名
平成4年	ネパール連邦民主共和国	保健衛生事業	1名
	カンボジア王国	医療協力事業	2名
	マレーシア	ベトナム難民救援事業	3名
平成5年	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	2名
平成6年	ザイール共和国	紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
平成8年	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
	ケニア共和国	紛争犠牲者救援事業	1名
	ルワンダ共和国	ザイール東部紛争犠牲者救援事業	1名
平成10年	アフガニスタン共和国	アフガニスタン北東部地震被災者救援事業	1名
平成11年	スーダン共和国	スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	アルバニア共和国	アルバニア・コソボ難民救援事業	1名
	トルコ共和国	トルコ地震被災者救援事業	1名
	中華人民共和国 台湾	台湾地震被災者救援事業	4名
	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	2名
平成12年	インドネシア共和国	スマトラ島ベンガル沖地震被災者救援事業	1名
	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
平成13年	エルサルバドル共和国	地震被災者救援事業	1名
	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
	インド	インド西部地震被災者救援事業	9名
	東ティモール民主共和国	東ティモール紛争難民救援事業	1名
	ペルー共和国	地震被害調査	2名
	シエラレオネ共和国	シエラレオネ紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン共和国	アフガン難民救援事業	1名
	アフガニスタン共和国	アフガニスタン地震被災者救援事業	7名
平成14年	イラン共和国	イラン地震被災者救援事業	1名
	リベリア共和国	リベリア紛争犠牲者救援事業	1名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
平成15年	イラン共和国	イラク人道危機関連調査	2名
	アフガニスタン共和国	アフガニスタン被災者救援事業	1名
	イラク共和国	スレイマニア教育病院医療技術支援事業	4名
	タンザニア共和国	タンザニア難民支援事業	1名
	アフガニスタン共和国	アフガニスタン被災者救援事業	1名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
	イラン共和国	イラン地震被災者救援事業	4名
平成16年	イラク共和国	スレイマニア教育病院医療技術支援事業	1名
	イラン共和国	イラン南東部地震被災者救援事業	6名
	ジンバブエ共和国	HIV/AIDS支援事業調査	2名
平成17年	インドネシア共和国	スマトラ島沖地震津波復興被災者救援事業	20名
	パキスタン共和国	パキスタン地震被災者救援事業	9名
平成18年	インドネシア共和国	ジャワ島中部地震被災者救援事業	2名
	タンザニア共和国	タンザニア赤十字社難民支援事業	1名
	ケニア共和国	ケニア共和国洪水災害救援事業	1名
平成19年	タンザニア共和国	タンザニア赤十字社難民支援事業	1名
	スリランカ民主社会主義共和国	スマトラ島沖地震津波復興被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	10名
平成20年	ミャンマー連邦共和国	サイクロン被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	8名
	イラン共和国	在外邦人救急法等普及事業調査	6名
	ジンバブエ共和国	コレラ被災者救援事業	6名
平成21年	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	3名

5 業務の現況

年代	派遣国	事業名	人数
	ジンバブエ共和国	コレラ被災者救援事業	1名
	中華人民共和国 香港	基礎ERU研修会開催協力	6名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	6名
	パキスタン共和国	パキスタン紛争犠牲者救援事業	1名
平成22年	ハイチ共和国	ハイチ大地震救援事業	9名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	7名
	チリ共和国	チリ地震被災者救援事業	3名
平成23年	ハイチ共和国	コレラ罹患者救援事業	5名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	7名
平成24年	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	4名
	ウガンダ共和国	ウガンダ北部地区病院支援事業	1名
	イラク共和国	クルド地域医療市場調査班	2名
平成25年	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	5名
	フィリピン共和国	基礎保健RDフィリピン南部台風災害救援事業	2名
	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	フィリピン共和国	世界保健機構（WHO）西太平洋事務局派遣	1名
	ニカラグア共和国	JICAインターンシッププログラム	1名
	フィリピン共和国	フィリピン中部台風救援事業	4名
平成26年	シエラレオネ共和国	母子保健医療支援調査事業	2名
	レバノン共和国	シリア難民救援現地調査	1名
	イラク共和国	イラク医療技術交流事業	4名
	シエラレオネ共和国	小児看護技術強化事業	1名
	ヨルダン・ハシミテ王国	シリア難民救援事業	1名
	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	ハイチ共和国	ハイチ地震被災者救援事業	1名
	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	フィリピン共和国	フィリピン台風救援事業	1名
平成27年	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	1名
	フィリピン共和国	フィリピン保健医療支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	2名
	ネパール連邦民主共和国	ネパール地震被災者救援事業	7名
平成28年	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	シエラレオネ共和国	小児看護技術強化事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
平成29年	イラク共和国	イラク紛争犠牲者救援事業	2名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民支援事業	7名
平成30年	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民支援事業	3名
	レバノン共和国	パレスチナ赤新月社医療支援事業	1名
	バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	パキスタン・イスラム共和国	パキスタン紛争犠牲者救援事業	1名
平成31年	ヨルダン・ハシミテ王国	中東地域紛争犠牲者支援事業	1名
	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
	ナイジェリア連邦共和国	ナイジェリア紛争犠牲者支援事業	1名
令和2年	レバノン共和国	パレスチナ赤新月社医療支援事業	1名
令和3年	南スーダン共和国	南スーダン紛争犠牲者救援事業	1名
令和4年	シエラレオネ共和国	シエラレオネ・中央こども病院サービス向上プロジェクト	2名
合 計			294名

②職種別派遣者数（派遣事業）

	令和6年度までの合計
医師	128
看護師・助産師	76
薬剤師	3
放射線技師	20
事務・技術職	67
合計	294

（単位：人）

③病院ERU実証展開訓練の開催

令和6年12月、日本赤十字社がアジアの赤十字・赤新月社として唯一整備した病院ERUの展開訓練を実施。大規模災害時での展開に備え、全国から要員が集まり病院ERUの展開およびシミュレーション訓練を通して知識と技術の習得を行った。

開催地	所属	参加者（職種・氏名）	
兵庫県三木市	国際医療救援部	国際医療救援副部長	杉本 卓哉
	外傷外科	医師	佐々木 妙子
	小児集中治療病棟	看護師	赤星 理子

④Red Channel Verificationの受審

上記訓練期間中、日本赤十字社の病院ERUは、世界保健機関（WHO）が定める多様化する緊急医療チーム（EMT）の水準に基づき、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）が実施する「Red Channel Verification」の審査を受けた。令和6年度初めから、本社と各国際医療救援拠点病院の要員が協力して世界でマニュアルや資機材の整備に取り組んだ結果、日本赤十字社は国際赤十字・赤新月社運動として世界で初めて同認証を取得した。

開催地	タスクチームメンバー		
兵庫県三木市	国際医療救援部	国際医療救援部長	岡村 直樹
	国際医療救援部	国際医療救援副部長	城下 卓也
	救援課	救援課長	黒田 彰紀
	手術センター	看護係長	小林 賢吾
	救急1階病棟	看護係長	日隈 妙子
	7階東病棟	看護主任	上野 史津子
	情報システム課	主事	富田 香秀

⑤災害救援技術の研究開発について

（1）燃料電池医療車「Dr. Car NEO」の共同実証

令和3年度から、トヨタ自動車株式会社と世界初となる燃料電池医療車「Dr. Car NEO」の共同実証を開始。熊本赤十字病院における当該実証は、環境対策の模範的な取り組みとして、国際赤十字・赤新月社連盟の環境対策部門から高い評価を得た。

本実証は令和6年6月末日を持って終了しており、今後は環境大国であるヨーロッパにて検証が行われる予定である。

（2）携帯アプリを用いたオンライン避難訓練

令和6年度に、Lineヤフー株式会社と共同で開発をおこなった携帯アプリを用いた避難行動支援技術を用いた避難訓練が沖縄県那覇市で開催され、この取り組みは2024年PRアワードのブロンズ賞を獲得。また、国際赤十字の関係者から多くの注目が寄せられた。

（3）酷暑期避難所演習・厳冬期災害演習

令和6年7月に、災害によりライフラインが制限された酷暑期の避難所環境での熱中症などによる災害関連死・疾患予防を目的とした酷暑期避難所演習に熊本赤十字病院の職員が参加した。

36℃の体育館で1日を過ごす中で、段ボールベッドなどの実証を行った。

また、令和7年1月には停電を伴う災害により暖房機器の使用が不能になった厳冬期の避難所生活における低体温症などへの対策を検討する厳冬期災害演習にも同職員が参加し、-19℃の環境下で避難所や車内での避難の課題を抽出した。併せて、株式会社ワークマンと共同開発を行った平時から厳冬期の災害時まで使用できる防寒着の検証を実施した。

開催地	タスクチームメンバー		
[酷暑避難所演習] 大阪府八尾市	国際医療救援部	救援技術研究課長	曾篠 恭裕
	国際医療救援部	救援課長	黒田 彰紀
[厳冬期災害演習] 北海道北見市	事務部	事務部長	森崎 勝利
	国際医療救援部	救援技術研究課長	曾篠 恭裕
	国際医療救援部	救援課長	黒田 彰紀
	総務課	主任	上坂 博文
	総務課	主事	中野 航汰

(9) 移植医療推進活動状況

①人材育成

医療従事者の知識向上を目的とした研修会や講演会を開催。また、当院は日本臓器移植ネットワークが実施する事業の拠点施設として、臓器提供の経験が少ない複数の医療機関と連携を結び、ノウハウの提供や人的支援を行いながら、連携医療機関での体制整備にも取り組んでいる。

②患者対応

患者（家族を含む）からの移植医療（臓器提供・臓器移植）に関する相談をはじめ、「意思表示の有無」等の情報収集や臓器提供に関わる関係者および臓器提供者の家族との連絡調整等を行っている。

③院内の体制整備

定期的に多職種で集合し、活動報告や症例検討を重ね、緊急症例に対応できるようシミュレーションの実施とマニュアルのアップデートを行っている。

2019年度に総合医局内に移植医療支援室を設け、「臓器を提供する側」と「臓器を移植する側」双方への支援を行いながら院内の連携強化・体制整備を図っている。

2023年度には、新たに臓器のあっせんに必要な検査を実施する特定移植検査センター業務契約を日本臓器移植ネットワークと締結し運用を開始。

また、日本赤十字社の血液事業のひとつで、白血病等の治療のために移植に用いる「さい帯血供給事業」にも参加している。

④普及啓発活動状況

毎年、臓器移植普及推進月間である10月には、病院の待合ホールでの資料展示や移植医療のシンボルカラーであるグリーンに屋上をライトアップするなどして普及啓発活動に努めている。活動の様子は、病院のSNSや日本臓器移植ネットワークのホームページを通して院内外へ情報発信を行っている。

また、熊本県腎移植者の会が主催する「黄色い羽根募金活動」および、熊本県移植医療推進財団の賛助会員募集など、関係団体が実施する移植医療の活動にも協力している。

(10) 腎移植診療

当院では、1988年から腎移植診療を開始し、これまでに435例以上の腎移植を実施している。

近年、腎移植を希望される方が増加しており、当院ではより質の高いチーム医療の実践を目指し、複数の診療科（外科、総合内科、腎臓内科、泌尿器科、産婦人科、小児科、麻酔科など）と移植コーディネーターを中心とした多職種（薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、事務職員など）でチームを構成し、密接に情報共有を行いながら毎月2～3例の腎移植を実践している。

また、ハイリスク症例にも積極的に取り組み、A B O血液型不適合腎移植、抗H L A抗体陽性腎移植、二次移植などを行っている。

2019年度には総合医局内に移植医療支援室を設け、「臓器を提供する側」と「臓器を移植する側」双方への支援を行いながら院内の連携強化・体制整備を図った。

今後も移植医療の推進のために院内外に向けて情報発信を行っていく。

(11) 慢性疾患児家族宿泊施設（アンリーハウス）利用状況

アンリーハウスは、慢性疾患児の付添い家族の宿泊に伴う経済的負担と、入院児童の情緒不安を解消することを目的として、平成11年に国の補助金を受けて建設。鉄筋コンクリート造、2階建て、トイレ・バス完備で部屋数は5部屋。

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
利 用 部 屋 数	174	260	137
稼 働 率	9.5%	14.2%	7.5%
小児利用部屋数（再掲）	61	99	53
小 児 利 用 率	35.1%	38.1%	38.7%

※1名1室 1,100円（税込）

2名1室 1,320円（税込）

6 施設概要

令和7年4月1日現在

(1) 概 観

① 所在地 熊本市東区長嶺南二丁目1番1号

② 敷地面積 63,284.98㎡

建築面積 18,704.17㎡

延床面積 70,617.00㎡

病院本館棟	SRC造 地下1階・地上9階・PF1階	42,914.86 ㎡
管理棟	RC造 地上2階	2,899.88 ㎡
エネルギー棟	RC造 地下1階・地上2階	2,089.35 ㎡
救急棟	SRC造 地下1階・地上6階	13,154.08 ㎡
立体駐車場	S造 地上5階	8,470.13 ㎡
付属施設		1,088.70 ㎡

③ 駐車台数 562台（来院者用）

(2) 特 徴

<診療機能>

新生児から高齢者まで緊急度・重症度の高い症例も対応可能な「総合救命救急センター」・「こども医療センター」を併設。集中治療室「ICU・G-ICU・SCU（脳卒中集中治療室）・PICU（小児集中治療室）」を整備。

がんの治療・診断を主眼に高度医療機器（MRI・CT一体型ライナック・320列マルチスライスCT・CRシステム他）を配備した「画像診断治療センター」、手術支援ロボット「ダヴィンチ」、ハイブリッド手術室を有する回収廊下方式の手術室（11室）の設置。

<情報管理>

総合医療情報システム（電子カルテ）、「医療情報管理センター」による医療情報の一元化。物流システム（SPD）導入による効率的かつ迅速な薬品・物品管理供給体制。

医療社会事業部、地域医療推進課の設置、地域連携システムの導入などにより、地域の医療機関との情報交換を推進。

<防災対策>

県下の基幹災害拠点病院として、耐震構造の強化（基準の25%増）。ヘリポートの設置、大規模災害時の大量被災者収容のため外来待合ホール、救急待合ホール、多目的ホールに医療ガス管の配備、また自家発電装置、災害備蓄倉庫（本館地階、500㎡強）、大型受水槽増設によりライフラインの確保。

ヘリポート（ドクターヘリ離発着、重篤患者受入、常備救護班搬送）

	第1ヘリポート（本館）	第2ヘリポート（立体駐車場）
離着帯の種類	飛行場外離着陸場 （BK117C-2）	飛行場外離着陸場 （BK117C-2）
着陸帯の強度	5.4 t まで	11.0 t まで
着陸帯の面積	225 ㎡	605.1 ㎡
備 考		各種指示灯を装備し、 夜間の離発着も可能。

＜療養環境＞

入院部門：

室料差額個室125床、重症加算対象個室12床、多床室は1室3床又は4床。

全室にトイレ、洗面台、個人用ロッカー設置。各ベッドにはテレビ、冷蔵庫、床頭台を常備。

外来部門：

各診療科のブロック配置。患者への情報提供として外来情報表示システム。

個人情報保護を目的とする患者番号呼び出しシステム。

マイナンバーカードの保険証利用のマイナ受付設置。

(3) 施設設備

＜水＞

飲料水は熊本市から供給を受けている。平成21年3月には災害対応用として受水槽2槽（187 t）を追加設置、合計 4槽で353.2 t の貯水が可能である。

また、井水は、井戸2本から空調用、トイレの洗浄水用として、受水槽2槽で合計290 t の貯水が可能であり、外部からの供給がない場合でも、節水対応により使用量約3日分の水を確保している。

	用 途	貯 水 量
市 水	飲料水等	4 槽 合計353.2 t
井 水	空調用、トイレ洗浄水等	2 槽 合計290 t

＜電力＞

電力事業者から6,600 V 本線と予備線の2回線受電により、本線が停電しても予備線からの受電が可能である。

また、2回線とも停電した場合は、非常用発電機6基、ガスコージェネ発電機2基により、災害等の非常時にも継続して電力を供給することが可能である。備蓄する燃料量から約3日間の稼動が可能である。

発電容量	① 本 館	800 k W 1基、400 k W 1基、28.8 k W 1基 コージェネ発電機400 k W 2基
	② 救 急 棟	800 k W 1基、208 k W 1基
	③ 立体駐車場	84 k W 1基

＜太陽光発電システム＞

大規模災害対応と環境への貢献を主眼とし、平成21年3月に太陽光発電システムを導入。本館西病棟屋上、管理棟屋上、外来駐車場に太陽光電池パネルを設置。さらに平成24年5月には救急棟屋上への追加設置により、合計1,476枚のパネルで308 k Wの発電能力を有する。

災害時にライフラインがストップした場合でも、避難所で使用する通信機器や夜間照明用電源などの最低限のエネルギー確保が可能。

環境への貢献としては、1年間で原油換算節減は約9.8万リットル（ドラム缶約493本分）CO₂の削減量は約73.9トン、森林面積に換算すると約62haとなり、これは標準世帯の約74世帯分に相当する。

①用途

施設内照明、空調等

②太陽電池容量

308kW（208.4W×1476枚）

- ・本館西病棟屋上 95kW（208.4W×456枚）
- ・本館北西側屋上 30kW（208.4W×143枚）
- ・管理棟屋上 90kW（208.4W×434枚）
- ・外来駐車場 33kW（208.4W×155枚）
- ・救急棟屋上 60kW（208.4W×288枚）

③太陽電池種類

多結晶シリコン

(4) 施設配置表

令和7年4月1日現在

<本館>

	西病棟	東病棟
屋上		第1ヘリポート
8階	国際医療救援部、社会課、会議室、電話交換室、ボランティア室、がん相談支援センター、情報システム課、サーバー室	内科、呼吸器内科、皮膚科
7階	内科、消化器内科	外科、内科、消化器内科
6階	循環器内科、心臓血管外科、内科、脳神経内科	泌尿器科、耳鼻いんこう科、外科
	心大血管リハビリテーション室	
5階	脳卒中センター、脳神経外科、脳神経内科、脳卒中集中治療病棟(SCU)	整形外科、形成外科
	病棟リハビリステーション	
4階	眼科、消化器内科、血液・腫瘍内科	産婦人科、LDR、新生児室
3階	救命救急病棟(GICU3)	集中治療病棟(ICU)
	腎センター(人工透析室)、検体検査センター、手術センター	
	臨床工学課、病理診断科部など	
2階	外来(循環器内科、心臓血管外科、総合血管センター、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、泌尿器科、産婦人科、リウマチ科)、総合リハビリテーション、総合処置室、医療社会事業課、地域医療推進課、入院業務課、診療支援課、企画開発課、経営戦略室、広報室、移植医療支援室、図書室、購入管理課、器材管理課、栄養課、栄養指導室、薬剤部、管理部門(会議室、電カル室、医局、更衣室、職員食堂)など	
1階	外来(眼科、耳鼻いんこう科、脳神経外科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、内科、腎臓内科、糖尿病内科、整形外科、外科、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、皮膚科、形成外科、血液・腫瘍内科、精神腫瘍科、小児科、小児外科)、総合処置室、点滴室、外来化学療法センター、緩和ケアセンター、生理検査センター、内視鏡センター、画像診断治療センター(放射線科、放射線治療科)、外来業務課(初診、支払い窓口)、患者サポートセンター(入院・検査説明)、相談室、薬局、解剖室など	
地階	災害備蓄倉庫、霊安室、荷捌き場、リネン室など	

<管理棟>

2階	人事課、総務課、会計課、医療安全推進室、教育研修推進課、教育研修推進室
	感染管理室
1階	総合案内、面会受付、ショッピングモール、コンビニエンスストア

< エネルギー棟 >

2階	エネルギーセンター（電気室、コージェネ室、非常用発電機室）
	ハウスキーパー室
1階	防災センター（中央監視室）、熱源機械室
地階	廃棄物保管庫

< 救急棟 >

6階	電気室、発電機室
5階	研修・研究センター（総合シミュレーションルーム、視聴覚研修室、研修室）
4階	研修・研究センター（多目的ホール、研修ホール）
3階	こども医療センター（小児集中治療病棟（P I C U））
	（こども病棟（小児科、小児外科、整形外科））
2階	こども医療センター（こども病棟（小児科、小児外科、整形外科）、病児・病後児保育室）
1階	救命救急センター、救急1階病棟（G I C U 1）、救急業務課
地階	地下会議室、当直室

< 立体駐車場 >

5階	第2ヘリポート、運航管理室（C S ルーム）、ヘリ格納庫
2～4階	来院者用駐車場
1階	来院者用駐車場、大型車駐車場、公用車駐車場、救援資機材用倉庫

赤十字基本原則

1965 年ウィーンで開催された 第 20 回赤十字国際会議決議

第 20 回赤十字国際会議は、赤十字の活動の基礎である次の基本的諸原則を宣言する。

人 道

赤十字は戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的および国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字はすべての国民間の相互理解、友情、協力および堅固な平和を助長する。

公 平

赤十字は国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合、もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

中 立

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字は戦闘行為の時いずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも、政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

独 立

赤十字は独立である。各国赤十字社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律にしたがうが、つねに赤十字の諸原則にしたがって行動できるようその自主性を保たなければならない。

奉 仕

赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織である。

単 一

いかなる国にもただ一つの赤十字社しかありえない。赤十字社はすべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行わなければならない。

世 界 性

赤十字は世界的機構であり、そのなかにおいてすべての赤十字社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。